

## 沖縄と本土の型染に関する文化と美意識についての比較研究

### —伝統工芸（紅型）の更なる発展への寄与を展望して—

琉球大学 教育学部 家政教育専修 富士栄 登美子

元福島学院短期大学

吉田 ハルキ

武蔵野美術大学

小林 桂子

(連絡先：電話 098-895-8403 / E-mail : tomiko@edu.u-ryukyu.ac.jp)

#### 1. 研究概要

糊を防染に使う型染は、中国の印花布を除いて日本以外にはない。沖縄県の紅型、三重県の鈴鹿市白子、寺家の伊勢型、福島県の喜多方、会津若松、田島の会津型の各型染について比較検討し、その中で、紅型のもつ社会的、文化的背景、風土、人々の美意識を考察し、併せて、伝統工芸の更なる発展への寄与を展望する。

#### 2. 研究成果

- ① 紅型には白地型と染地型の両方が混在することが可能であり、そのような型紙が多い。
- ② 紅型、伊勢型、会津型のいずれも現代は絞張りの技法を使う。紅型で、「糸掛け」ができるのは知念績元氏のみである。鈴鹿市白子、寺家では「糸入れ」を城ノ口みゑ氏の後、松井俊子氏が継承している。
- ③ 紅型紙を彫る台は、沖縄豆腐を乾燥させて作ったルクジュウを用いる。他にはない。
- ④ 会津型、伊勢型は単色が多いが、紅型は、色さし、色配り、隈取り、二度刷りと多色である。
- ⑤ 染色法では、紅型は捺染法であり、会津型、伊勢型は浸染法である。
- ⑥ それぞれの特徴から美意識は、「色の紅型、粋な伊勢型、純な会津型」となる。
- ⑦ 沖縄県の紅型は、教科教育として一部で扱われているが、今後は地域教材とした授業を小中高校の教育の中に取り入れることで、子供たちの伝統工芸に対する意識の向上の更なる変容が期待される。
- ⑧ 紅型には、本土からの影響と推測される文様のひとつに、「松に懸かる藤」がみられる。これは清少納言の『枕草子』に、“めでたきもの”として『花房長く咲いた藤の花の、松にかかりたる。』というくだりが紅型の文様に表現されており（富士栄 1999）、沖縄の紅型が平安時代の本土文化の影響を受けている点で、極めて興味深い文様である。琉球舞踊古典女踊衣裳に多く使われている。

#### 3. 関連論文・特許等

- 2005年5月 富士栄登美子：「琉球緋の現在—その意匠と活用」日本家政学会誌 第56巻第5号
- 2006年3月 富士栄登美子：「地域教材（琉球緋）を生かした中学校家庭科教育実践(1)—4つの動機づけの視点から—」琉球大学教育学部紀要 第68集
- 2006年8月 Tomiko Fujie, Harui Yoshida : “Comparison of culture and aesthetic sense on dyeing of stencil between Okinawa and Mainland of Japan, with special reference to BIN-GATA, ISE-GATA, and AIZU-GATA”. The 22<sup>nd</sup> International Costume Congress in Tainan, Taiwan
- 2007年1月 富士栄登美子・多喜ゆみ子：「地域教材（琉球緋）を生かした中学校家庭科教育実践(2)—4つの動機づけの視点から—」琉球大学教育学部紀要 第70集

#### 4. 期待される応用分野

教科教育学（家庭、美術、総合的な学習の時間、課題研究など）

#### 5. 技術移転の方法

■研究論文・データの提供

#### <産学官連携キーワード>

生活文化、衣生活、生活造形、家政・家庭科教育